

るための優遇措置である。母校へ寄付したお金の税金控除を受けるには、具体的にどうしたらいいのか、大学の担当者に解説してもらった。

この税金控除優遇措置を受けるには、毎年二月一六日から三月一五日までの間、全国の税務署で実施される確定申告期間中に所定の申告手続きをする必要がある。申告の手続きは、個人か法人かによつて取り扱い方が違う。

まず、個人寄付の場合を寄付の段階から説明すると、大学所定の振り込み依頼書に必要事項を記入して捺印のうえ銀行窓口から振り込み「振り込み領収書」を受け取つて保管する。大学が入金を確認した後、「特定公益増進法人で

法人の場合は、「受配者指定寄付金」と「特定公益増進法人への寄付金」の二種類がある。受配者指定寄付金は、

では、かなり大きな減税効果
が期待できる。

申告で税金が安くなる
寄付金は税金控除の対象
優遇措置を利用しよう

神奈川大学の再開発計画に伴う個人や企業の寄付金は、一定の手続きを取れば、税金控除の対象になる。これは、今回の神奈川大学の寄付金募

あることの証明書】（写し）
が送られてくる。
税務署に申告できるのは、
一月から一二月までの一年間
に行つた寄付金で、数回に分

業団」あてに寄付金を振り込むことになる。その際、寄付金を使ってもらう相手先である「受配者」を自由に指定することができる。つまり、受

したらしいのか、大学の担当者に解説してもらつた。

この税金控除優遇措置を受けるには、毎年二月一六日から三月一五日までの間、全国の税務署で実施される確定申告期間中に所定の申告手手続きをする必要がある。申告の手

は総所得金額の二五・八一セントが限度となつてゐる。

仕組みになつてゐる。
寄付金を銀行から振り込む
と、日本私立学校振興・共済
事業団発行の領収書が送られ
てくる。この領収書を添えて
個人の確定申告と同様に法人
としての申告をすると、税金
が戻つてくる。この場合は、

する方式を採用しているので、寄付金などの控除によつてランクが一つ下に落ちる場合などは大きな節税効果につながることになる。税理士などの専門家にも相談して、大いに利用していただきたい。問い合わせは、大学事務局へ。

■ 募金目標は一〇億



横浜キヤンバスの再開発

スで、校舎の新築工事や耐震補強・リフレッシュ工事があって、急ピッチで進んでいた。二一世紀の神奈川大学を創造する横浜キャンパスマス

母校が現在地に移転したのは、昭和五年。二四年に大学に衣替えしたが、その初期に建築した建物は老朽化が進み、業の一環である。

えて平成七年に起きた阪神淡路大震災を教訓に耐震診断を実施した結果、老朽校舎三棟の建て替えと他の八つの建物の耐震補強及びリフレッシュ

新築は計三棟になる。いずれも三月一六日(火)に起工式を行つた。



◎ 附录二



卷三



卷一
魚

An architectural rendering of the newly built No. 1 Hall. The building is a modern multi-story structure with a prominent glass-enclosed entrance on the ground floor. Above it, several floors have a light-colored, textured facade. A small parking area with a few cars is visible in front, and a landscaped area with trees and shrubs surrounds the base of the building.

一階、延べ床面積九、一二六平方メートル。大学の中心施設としての本部事務局や研究室が入るほか、学生ホール地下には最大七五〇人収容で、三室（一室二五〇人収容）に分割できる演習室が設置される。一つの校舎になる三・四号館は、地上八階、地下二階、延べ二〇、八五六平方メートルで、積層ゴムアイソレータによる免震装置を備える。高度情報化に対応する設備・機能を備えた講義室、情報演習室、実験室をはじめ工学研究所、学部・大学院の研究室、演習室、学生ラウンジなどが設置され、地下二階には隣接する図書館の書庫が増設される。人間科学棟は、地上四階、地下一階、延べ四、六八六平方メートル。スポーツ・文化系のクラブ・サークル室、音楽リハーサル室、トレーニングジム、測定室、管理室、会議室、AVルーム、ミーティングルーム、和室などが設けられる。

竣工予定は、新一号館が平成一四年二月、新三・四号館が同一二年一二月、人間科学棟が同一二年五月となつていつの建物。平成九年度に着工る。

残る三棟も今年中にすべての工事を完了する。

現在の三、四号館跡地には緑の豊かなオープンスペースを造成する。ここは、憩いの場、交流の場として広く人々に提供する公開空地となる。近隣住民との交流や防災面など地域社会に一定の役割を果たし、開かれた大学の象徴ともなる。

リフレッシュ工事では、教室や研究室などのほか、すべてのトイレを清潔で快適なものに改装した。再開発工事が全部完了すると、建物、施設など教育と研究を実践する場となる環境は、二一世紀にふさわしい先進設備を備えた快適で魅力あるキャンパスに生まれ変わる。

就学人口が激減する少子化は、一段と進み、受験生の獲得競争が始まっている。大学が二一世紀に生き残るためにも、教育内容とともに環境整備も大切である。その意味でも母校の再開発計画は、時代の要請にマッチした事業である。しかし、この事業には膨大な資金が必要。大学当局は綿密な資金計画を立てたうえで事業を進めているが、卒業生にも応分の寄付協力を求めている。フロンティアクラブとしても募金協力委員会を核に精力的な協力態勢の構築を